

第152回 PCRと免疫染色の使い分けについて

PCRと免疫染色の使い分けについて。

最近是利用可能な検査方法としてPCRがかなり普及してきました。それに伴い免疫染色とPCRのどちらを用いるべきなのかという問題が生じます。考え方は様々であるかもしれませんが、弊社の意見としてご紹介致します。

●リンパ腫のT cell・B cellの鑑別

病院様が弊社にクローナリティ検査を依頼される場合には、基本的には病理検査に併用するというかたちになります。HE標本にてリンパ腫であることが明らかな場合には、PCRよりも免疫染色をお勧めしています。その理由として、

- ・費用が安い。
- ・結果が出るのが早い。
- ・偽陰性率が免疫染色の方が低い印象がある。
- ・結果の精度に不安がある場合には、他の抗体を用いてリトライできる。

では、こういった場合にPCRのクローナリティ検査をするのでしょうか？

一言で申し上げれば、HE標本や免疫染色でリンパ腫か否かの判断が難しい時です。

免疫染色でT cell、B cellの鑑別を試みても、判明しない場合があります。例えば最近話題の腸粘膜の高分化型リンパ腫で、もともと粘膜の中に浸潤しているリンパ球に、分化の高い腫瘍性リンパ球が少数混在している場合。これは免疫染色では単一細胞群として見出せないため、リンパ腫の診断をすることは困難です。PCRの助けが必要になります。

このようにリンパ腫であるかどうかを判断する目的でT cell・B cellの免疫染色を行った場合には、その費用は発生しませんので、ご安心下さい。

PCRに関しましては外注になりますので、目的にかかわらず費用は発生致します。

●PCRによるc-kitの検査に関しまして

PCRのc-kit検査は遺伝子の変異を検出するものです。それに対し免疫染色のc-kit染色は変異の有無を区別できるものではなく、c-kit (KIT) の存在の有無を確認するものです。例えば肥満細胞腫やGISTではしばしばc-kit (KIT)が発現していますので、他の腫瘍との鑑別に有用になります。

今現在、肥満細胞腫の悪性度にかかわらず、PCRのご注文をいただくことが多くなっています。しかしながらグレードの低いものでは変異を起こしている可能性は比較的低く、またグレードの低い肥満細胞腫で完全切除されている場合、分子標的薬の使用の可能性は低くなると思いますので、その点ご考慮の上、ご注文を頂ければと思います。もちろん、いざというときに備えて変異の有無の確認までしておくことは、金銭的問題以外のデメリットはありませんので、獣医学的にみて悪いことはないと思います。PCRご注文の仕方の一例として、「グレードII以上の場合PCR希望」、

「核分裂指数5以上の場合はPCR希望」など様々なリクエストに対応可能です。

パソラボ